

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ 2階		
所在地	盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	平成24年12月29日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JkyosyoCd=0390100170-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安全、安心して健康で暮らせる事を何よりも第一とする。介護現場では付き物の転倒骨折事故のリスクをクッション床を導入する事により軽減するよう配慮した。また、感染症への対応として清掃方法はオフロケーションシステムを導入、清掃区域、汚染処理区域別に清掃用具を分かりやすく色分けしEPA登録の洗剤を使用するなど、清潔で安全な空間の創造を目指している。トイレ、浴室、居室、廊下手摺りには、防カビ、殺菌、消臭効果を目的とした光触媒を施行している。また、台所には包丁、まな板殺菌個を設備し包丁、まな板は用途別に色分けし、使用後は次亜塩素酸で消毒殺菌を行い保管するよう徹底しかつ指導しており、提供するサービスが入居者やご家族にも安心され満足頂ける施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぽぽは1階と2階の2ユニットからなっている。開設は2010年5月1日で、建物も新しく清潔である。また、災害面への配慮があり、2階からの非常階段が総2階建物の南西端側と北東端側に設置され、災害の備蓄品やAEDが備えられている。サービスの質の向上を図るため、職員間で課題の共有への取り組みを第一とし、特に申し送りノートへの記入と確認を大切に、介護計画の作成やモニタリングを実施しており、その実践をもとに、いつも見直しの方向付けをし、利用者の状況に応じたサービスに努めている。地域とのつきあひも大切に、町内の諸行事にも前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場で基本理念の確認する場を設けることにより、職員のモチベーションの向上につながる。常時掲示板にはり周知徹底を図っている。基本理念を基に、各ユニット毎にそれぞれ職員で話し合い掲示し周知徹底している。	基本理念とし、「入居者様が健康を維持し元気に楽しく、安定した生活を送れるよう支援します。」をかかげ、1階のユニットの職員が話し合っ、「私達は、笑顔を忘れないようにします。」「毎日必ず1回は体操の声がけをします。」を目標とし共有し毎日のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、会長、総務部長、班長、民生委員に運営推進の委員になって頂いております。近隣の方々には古新聞を頂いたり旬の物を届けて頂いたり声を掛けて頂いております。町内での行事も日程が許す限り参加させて頂いております	町内会加入をし、全く近隣家庭と同じ様に位置づけられていており、グループホームとしても可能な限り町内の諸行事に参加している。自己評価の中で古新聞とあるのは、使用済みのパットを包むための物で、近隣からいただき協力を得ている。なお防災関係の協力を相談する必要が考えられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員や近隣の方々には避難誘導の援助要請を行なう等、連携が円滑に図れるようご協力いただき努力しております。また、折々の催事にもご参加いただいております。前回「認知症を学び地域で支えよう」講習会にも参加頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時に施設で困っている事や利用者の状況や行事、年2回の避難訓練等を報告、感想や意見等を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議を活かすために、委員として町内会長をはじめ、町内役員、特に最も近い存在の班長さんを依頼し、また、昼食を共にいただき、食事内容や、利用者の状況を理解していただくと共にグループホームを理解いただき、今後のあり方について活かそうと取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の相談や運営推進会議の報告、その他、盛岡市からの情報提供がメールで送信されるなど、協力関係は築けている。	グループホームの要件でも電話等で済ます場合が多く、事務的にも本部で対応することが実状であり、今後グループホーム自体で市の担当者や連絡を取る機会をもって行きたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています。また「グループホームの倫理綱領」「利用者の権利」を掲示板上に掲示し職員の意識の向上及び周知徹底を図るなど実践している。また、極めて高い確率で転倒の危険がある利用者については離床センサー	身体拘束をしてはならないことは、職員の研修を通して共有に努めているところではあるが、利用者の危険あるいは過去にあった他に迷惑をかけた経験から、利用者の観点から終日施錠している。	精神的にも身体的にも拘束しないことの本質を考えながら、そのあり方について全職員で話し合っ、施錠しないケアへの取り組みについて工夫していただくことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	の活用や、記録場所等の移動など臨機応変に対応出来る様、職員間で話し合い実践している。但し、利用者の命の安全を最優先とし玄関は施錠しております。この件に関しましては家族からのアンケート調査、実施済みです。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年11月に外部研修を受講、昨年の12月に全職員が内部研修を実施、ただその時点で入居者に制度の必要性のある人がいなかったこともあり、今後、介護に携わる物としてこのような制度の理解を深めなければならないと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族から十分な聞き取りを行い、その後、重要事項説明書で施設利用について説明を行っております。家族は理解、納得されていると思う。疑問がある場合は、誠意を持ち対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にこられた際は出来るだけ管理者か職員が意見、要望をお聞きするようにしている。意見が出た場合は臨機応変に対応し職員間で周知徹底出来る様、連絡ノートに記載し対応に勤めている。	利用者からは直接、家族から面会に訪れた時に要望、意見を聞くことが多い。あまり訪れる機会が多くない家族からは手紙等で聞く。多いのは、運営に関するものより個人的なものが多い。しかし、可能な限り、すぐに対応している。例えば、「テレビを見やすい位置にする」や、「受診対応」など。要望は結構多い方である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議及び全体会議等への出席、緊急会議の招集の指示を出し問題を先延ばしせず解決するようにしている。共有フォルダーでタイムリーな情報を共有出来るようにしている。	日常の中で、ケース会議、全体会議などで出された意見については、その都度結論を出す様になっている。近くには家庭の事情から勤務時間の変更の願いがあり要望に答える対応をした。問題をみんなで共有しながら答える様になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は業務に専念できるよう請求、小口処理業務は本社で行っている。職員の披露が蓄積しないようなシフトや有給が使えるよう配慮、希望休みがある場合は可能な限り応えるようにしている。外部研修受講等は勤務としての扱いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事として内外の研修に参加するよう働きかけており、また資格取得等については休日や有給等の配慮を行なっている。また、介護福祉士等を資格取得した場合、資格手当を支給する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国GH協会や地域のグループホーム協会に加入し協会主催の会議に参加、タイムリーな情報収集に努め参加している同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や不満がある時はお話を傾聴し少しでも不安が軽減するよう努めています。又、こちらから声掛けをし話しやすい雰囲気を作るよう職員間で努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にお話を伺いながら信頼関係が構築出来る様努めている。また入居後の様子を家族へ報告し少しでも安心して頂ける様、配慮している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及び家族のそれぞれの要望、本人の能力や身体状況、医療との関わりを見極め他のサービスを紹介する事もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で入居者が生き生きと笑顔で過ごしていただけるのか変化がないか常に目を配り入居者、職員が互いに支えあっているという意識を持って生活している。そして他入居者との良好な関係が築けるよう考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の情報を都度家族へ報告し共有するように努め本人の意向をお聞きしながら支えていけるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの人達との関係が絶たれないよう、訪問しやすい環境を心がけている。町内の入居者は地域の行事に継続して参加していけるよう地域の方々の協力を得て援助している。	地域の行事によんでいただき参加するなどの支援をしている。近くのイオンモールでの食事会や、近所の理容師さんに毎月1回は訪問していただくなど、可能な限り関係継続の支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活や本人の性格、言動を観察し利用者同士の関係を把握しトラブルが起きないように支援している。また、どうしても他者との関係が築けない利用者は職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に退去された場合でもオムツを届等の協力は行なっている。また、ご家族の要望や他介護施設の情報提供、問い合わせ等、出来る限り協力は実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に傾聴の姿勢を持ち利用者への対応を行なっている。またその事はケース会議で検討し個別援助計画に活かす事と、職員間で共有出来るよう申し送りノートを活用する。	「聴く姿勢」を第一に考えた実践をしている。職員個々に聴き取った事は申し送りノートに記録し、全職員が閲覧押印し、確認共有に努めてケアに活かす様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から出来るだけ多く情報を提供してもらおうが、独居の方等は情報が少ない事が多い。入居後、本人及び面会の家族等から新しい情報を得る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動、体調や表情等から状態を察知し都度対応すると共に、職員間で日々の変化や本人の出来ること、出来ない事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り等から常に利用者の状態変化に目を向け変化に応じて都度、ケース会議を行い現状に合った個別援助計画を作成するよう努めている。	利用者全ての情報を活かした計画づくりにあたる。その中には利用者に関する情報から職員の意見を含め、最終的なケアプランの作成と職員の共有が成り立つことで質の高いモニタリングが実施され、次のステップにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日中、夜間の様子を日誌に記録保管されており職員は毎日、目を通し特別な変化等は申し送りノートを活用、情報伝達に漏れが無いよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や或いは入退院の対応等、柔軟に対応出来るよう人員を配置、家族からの突然の要望にも柔軟に対応すよう職員は心掛けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぼぼ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入、地域のお祭りには利用者と共に出かけるなどしている。また、町内の老人クラブに加入されている入居者は地域の方々の協力を得て継続し参加されている。また、外出の際が万が一の為、GPS携帯を持参されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向を尊重し対応して頂いている。少しの変化を見逃すことなく電話で相談援助を受け対応している。夜間、休日等も往診して頂き、入院が必要な場合は入院先の手配、家族への説明も行なっていたらいい。	利用者一人ひとりがそれぞれのかかりつけ医をもっている。受診時は原則家族が支援、家族できない場合は職員が行う。夜間・休日等に急変があった場合など特別な場面には、協力医等の往診を受けることなど家族の理解を得ている。なお通常のかかりつけ医との情報交換にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるが急変時は協力医に報告し相談、適切な医療を受けられるよう支援している。また、緊急性がある場合は救急車を要請しもって家族から聞いている病院へ搬送を心掛けている。その後の経緯は協力医へ報告。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、家族の負担を軽減する為、オムツ、洗濯物、必要品の対応を実施している。また、入院前の情報も医療機関に正確に伝達している。医療機関からの経過については家族と共に同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は重要事項説明の際、主に家族へ説明しているが地域関係者と共にチームで支援する取り組みはされていない。入居者の状態に応じて終末期の対応は家族と十分に相談しながら進めていかなければならないと考えております。	重要事項説明にも、たんぼぼとしての看取りに関する指針があり、入居時に利用者、家族に説明している。利用者の状況の変化に応じて、その都度対応を確認しつつ、希望によって、終末期から看取りまで支援して行くことになっている。	家族には利用者の状況の変化を知らせつつ、家族の希望、要望、意向を最優先にし、それに応ずる姿勢をたんぼぼは指針としているが職員の共有化がなされる様に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、職員は緊急連絡網の整備、消防車、救急車の要請時の通報訓練、避難訓練を実施し実践力を身に付けている。また応急手当を職員は外部研修に参加している。個別の緊急対応時のマニュアルも職員の目がつ場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の方々の緊急連絡網も了解を得て作成しており災害時は協力を要請出来るようになっている。非常通報ボタンを押せばセキュリティ会社につながりそこから本社担当者に連絡が入るシステムになっている。	防災計画による避難訓練は年2回実施している。運営推進会議の委員の方々にも災害発生時に協力をいただく様になっているが、近隣住民の方々と協力は確定していない。災害時の備蓄品、AEDの備えもある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人お一人の人格を尊重し自尊心を傷つけないよう配慮して声掛けを心掛けている。記録等の個人情報の取り扱い等、さまざまな面でプライバシー保護を行なっている。	利用者の個人情報にかかわるものについては厳重に管理している。一人ひとりの尊重は特に言葉づかいや、日常的に職員の利用者への接し方などに配慮しながら利用者の自尊心を傷つけない様に心がけている。自尊心と身体拘束との関係にも視点をあてて見たい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が想いを伝えられるような環境を作りなるべく選択の幅を持たせるよう心掛けている。自己決定が困難な方には無理強いせず職員を変えたり時間を置きながら対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて個別支援に心掛けているが余裕が無く都合を優先している事もある。食事時間や、入浴時間は柔軟に対応するように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に沿い美容室へ外出されたり近隣(運営推進委員)の理髪店に来て頂き会話を楽しみながら支援して頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わって頂けるようになるべく旬の食材をメニューに取り入れている。また食事作りの際は下ごしらえ等、交代でお手伝いして頂いている。食後の片付け等も楽しく会話されながら行なっている。	利用者みんなが明るく食事をしている。食材はたんぼぼで一括外注で購入している。季節によってホームの畑で利用者が栽培したものも用いる。食事は職員も共に食べており、可能な利用者は手伝いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じ食事量、軟らかさ等、個別にチェックし職員全員で把握するようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持のため、食後の口腔ケアを徹底実施している。また、義歯洗浄剤の購入なども職員が対応している。清潔、風邪予防の為、食前のうがいも徹底している。困難な方には職員がスポンジ等に対応している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重した声掛けや誘導を行なっている。排泄のパターンをチェック表で確認しながら一人一人に応じた対応を行なっている。また、主治医との連携のもと水分摂取や薬等をしようしながら支援している。	排泄パターンをチェック表で確認し、それを参考に、利用者一人ひとりに、さりげなく声をかけしながらトイレに誘導している。その結果、良くなって来ている利用者もいる。一階の場合、自立できる利用者は7割ぐらいはいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、乳製品の摂取等で日々、工夫はされているが改善が見られない場合は協力医、主治医に相談し薬を処方して頂く。また、排便チェック表への記録をもとに服薬管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に考慮しつつ本人の意思を尊重し入浴の声かけを行い対応している。入浴に抵抗がある方には職員を変えたり工夫ある誘導を心掛け最低限の清潔保持を確保する。入浴時間は午後からとなり一日、3名位で行なっている。	入浴は午後の時間になり、一人週3日ぐらいになる。体調に気配りしながら本人に声がけをし、できるだけ入浴をすすめる清潔な身体を保つ様に心がけている。入浴に抵抗ある利用者にも、利用者の希望を聞きながら、根気良くその気になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく無理強いをせず可能な限り本人の自由に生活して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人日誌に綴り職員がいつでも確認が出来るようにしている。個人日誌、服薬情報の欄にも薬名を表記しており変更になった場合等は随時変更。服薬時も職員は袋に表記されている名前を呼びその後、本人確認、介助する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に添えるよう外出の機会を増やして行きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の能力や希望に応じた対応を心掛けている。春先や初夏はなるべく少人数で散歩するよう心掛けてます、また外に長椅子を購入し皆さんで外に出られるよう配慮しております。時間が許す場合はチャグチャグ馬っ子等、見学に外出しています。	イオンモールの食事会など外に出る機会をつくる工夫をしているが、日常的には、天候の良い日は近隣の散歩に努めている。また、ホームの屋外ベンチで茶菓子を食べながら語り合ったり、畑作業をしたりして外気にふれる機会をもっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者がお金を所持されていない。1名の方は近隣の方で買い物や外出を自由にされている。GPS携帯	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族了解のもと、電話の要望があれば柔軟に対応している。手紙を書き職員にポストへ入れるように話される方もいる。年賀はがきや氏名を書いてもらう等、支援している。1名の方は携帯電話で家族とやりとりされている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は木のぬくもりがあり明るい場所になっている為、日中は日差しが入り冬場は暖房が無くても温かい。畳の敷かれた空間もありそこで新聞を見たり洗濯物を多端見ながら談笑したりするスペースがある。掲示スペースは行事の写真の貼ったり季節に応じた飾りつけがされている。	南向きの共用空間は彩光が良く明るい。柱、建具は木目調でやすらぎを感じる。今年も季節行事に合わせ、利用者みんなで作った水木だんごが飾られ、気持ちを和ませていた。行事を中心にした写真掲示も、その都度展示がえをしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は一人になりたい時は居室で過ごされたり馴染みの方を居室へ招いたり去れお話をされている。また、畳の間や玄関のベンチ、2階はベンチから外を眺めたり自由に過ごせるように援助している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべくお使いになっていた物を持ってきて頂けるように家族へ話しておりソファや筆筒、自作の人形、家族の写真、ラジオ、テレビ等、居心地欲過ごせるよう工夫されている。	自分のつかい入れた物、あるいは孫の作品や写真、木製の手箱、たんすなど、利用者一人ひとりの思いがこもったものを持ちこみそれぞれの居室を自分の居場所として工夫をこらしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、居室、廊下はクッション剤を使用したり居室に名前を印刷したりトイレ、浴室、洗面所に張り紙でお知らせする事で出来るだけ自立した生活が出来るように工夫している。	